

『世界の国からこんにちは』

こんにちは こんにちは 西のくから
こんにちは こんにちは 東のくから

こんにちは こんにちは 世界のひとが
こんにちは こんにちは さくらの国で

十二月十八日のこんにちは

こんにちは こんにちは 元気に歌おう

こんにちは こんにちは 笑顔あふれる

こんにちは こんにちは 心のそこから

こんにちは こんにちは 世界をむすぶ

こんにちは こんにちは 日本の国で

十二月十八日のこんにちは

こんにちは こんにちは 笑顔で歌おう



『冬景色』

さぎり消ゆる みなとえの
舟に白し 朝の霜

ただみずとりの 声はして
いまだ覚めず 岸の家

からすなきで 木に高く

人ははたに 麦を踏む

げにこはるびの のどけしや
かへり咲きの 花も見ゆ

嵐吹きて 雲は落ち

しぐれ降りて 日は暮れぬ

もしともしびの 漏れこずば

それと分かじ のべの里



『いい湯だな』

ババババ
バンバン
ババババ
バンバン
バンバン
バンバン
バンバン

いい湯だないいい湯だない
湯気が天井からポタリと背中に
つめてえなつめてえな
ここは北国 登別の湯

いい湯だないいい湯だない
誰が唄うか 八木節が
いいもんだいいもんだ
ここは上州 草津の湯

いい湯だないいい湯だない
湯気にかすんだ 白い人影
あの娘かな あの娘かな
ここは紀州の 白浜の湯

いい湯だないいい湯だない
日本人なら 浪花節でも
うなるかな うなるかな
ここは南国 別府の湯



『雪國』

好きよあなた 今でも 今でも
暦はもう少しで 今年も 終りですね

逢いたくて 恋しくて 泣きたくなる夜
そばにいて 少しでも 話を聞いて
追いかけて 追いかけて 追いかけて 雪國

窓に落ちる風と雪は
女ひとりの部屋には 悲しすぎるわ あなた

酔いたくて 泣きたくて 震える くちびる
そばに来て 少しでも わがまま聞いて
追いかけて 追いかけて 追いかけて 雪國

好きな人はいるの あなた
バカね バカな女ね 意地を はってた私

逢いたくて 夜汽車乗る デッキの窓に
とめどなく 頬つたう 涙のあと
追いかけて 追いかけて 追いかけて 雪國

逢いたくて 恋しくて 泣きたくなる夜
そばにいて 少しでも 話を聞いて
追いかけて 追いかけて 追いかけて 雪國



『津軽海峡冬景色』

上野発の夜行列車 降りたときから
青森駅は 雪の中
北へ帰る人の群は 誰も無口で
海鳴りだけを きいている

私もひとり 連絡船に乗り
こごえそうな鵜見つめ 泣いていました
ああ 津軽海峡 冬景色

ごらんあれが竜飛岬 北のはずれと
見知らぬ人が 指をさす
息でくもる窓のガラス ふいてみたけど
はるかにかすみ 見えるだけ

さよならあなた 私は帰ります
風の音が胸をゆする 泣けとばかりに
ああ 津軽海峡 冬景色



『赤鼻のトナカイ』

真っ赤な お鼻のトナカイさんは
いつも みんなの笑いもの

でも その年のクリスマスの日
サンタのおじさんは言いました

暗い 夜道は ぴかぴかの
おまえの 鼻が役に立つのさ
いつも 泣いてた トナカイさんは
今宵こそはと 喜びました

『きよしこの夜』

きよしこの夜 星はひかり

救いのみ子は まぶねの中に

眠りたもう いとやすく

きよしこの夜 み告げうけし

まきびとたちは み子のみまえに

ぬかずきぬ かしこみて

きよしこの夜 みこの笑みに

恵みのみよの 明日の光

輝けり ほがらかに



『たき火』

垣根の垣根の 曲がりかど

たき火だ たき火だ 落ち葉たき

あたろうか あたろうよ

北風ぴいぷう 吹いてくる

さざんか さざんか 咲いた道

たき火だ たき火だ 落ち葉たき

あたろうか あたろうよ

しもやけ お手手が もうかゆい

木枯らし 木枯らし 寒い道

たき火だ たき火だ 落ち葉たき

あたろうか あたろうよ

相談しながら 歩いてる



『北風小僧の寒太郎』

北風小僧の寒太郎

今年も町までやってきた

ヒューーンヒューーン

ヒュルルーンルンルンルン

冬でござんすヒュルルルルルン

北風小僧の寒太郎

口笛 吹き吹き 一人旅

ヒューーンヒューーン

ヒュルルーンルンルンルン

さむうござんすヒュルルルルルン

北風小僧の寒太郎

電信柱も泣いている

ヒューーンヒューーン

ヒュルルーンルンルンルン

雪でござんすヒュルルルルルン

